



空山琴平集

五

空山琴平集

遠 18
1346
76



門へ遠13
番 1556

ふえり 行の赤月

大坂煮入清水所 岩丸
竹小端 大坂藤原

甲儀



程口たいへいらく巻文

ぬやの口合



一人舟をぬりしおぬやふまへへのあつて
のちの暮をんのごくこくくくくくくくくくくく
へーくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
あやうさささささささささささささささささささ
ふのせはことぬをよいのくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

男とさふたらやたしくらよーふうりけ
まばそのまらみふふとみぞ人ととせーをら
の旦那みそ、はまのふおーをら

茶屋のやふ女希ひんをん

なる茶湯にたまやふ女中ふあつと田んを
んをみく女中みせいと田んかーいまりー
て十七八ある大入り袖ふとまらうよささどバ
んせーふ巻物ととあバ代金文拾あともうま
又五半のほくよらーとみせーふ巻物代

金にゆとをうま又八十半あいうあをら
あつとまらうませるとみせーゆけハ老女
下巻あつへーいやけあそまれそのあつと
代金八百あつとゆ人それハいふあつとまら
女あつと千之宗佐と入るくろがごさり
ゆま

大報をちれ由来

大報をちあつとあんとこあつとが中巻がつた
いものゆへ一人の男いふうこれハあしち

古へ申さくをさへらむを志するであらうと
 みをくはせたりてあへなまはるやいふ
 尚るまはるやいふとさるまはるまはる
 なるのまはるやいふとさるまはるまはる
 こまはるまはるやいふとさるまはるまはる
 まはるまはるやいふとさるまはるまはる
 らそいふまはるやいふとさるまはるまはる
 大報をさるまはる



き人百あゝの銀代

ある五座ある人又人五百あゝぬるまふせんそ
丸山^{まるやま}を入^{いれ}中^{ちゆう}法^{ぽう}うとさき^{さき}れども^{ども}あま^{あま}り^り地^ぢ金^{ごん}の^の金^{ごん}
後^{うけ}合^{あひ}か^かさ^さま^まと^とそれ^{それ}又^{また}里^りを^をせん^{せん}へ^へ中^{ちゆう}つ^つさ^され^れふ
さ^さら^らそ^そく^く後^{うけ}合^{あひ}も^もう^う執^{しつ}立^{たて}み^みせ^せー^ーに^にさ^さー^ー々^々め^め成^{ぢやう}
ら^らし^しま^まさ^さの^のも^もあ^あく^くに^にれ^れく^くい^いか^かう^うふ^ふむ^むう^うく^くが
の^の重^{ぢゆう}そ^そむ^む子^しの^のと^とゆ^ゆれ^れな^なき^きバ^バの^のけ^けあ^あハ
あ^あふ^ふり^りと^と茶^{ちや}と^と金^{かんと}又^{また}す^すま^まを^をゆ^ゆれ^れら^らが^があ^あん^んが
茶^{ちや}と^と金^{かんと}又^{また}も^もか^かう^うく^くじ^じう^うく^くい^いつ^つさ^さそ^そむ^むし^しる

わものともなれり色えいんやまのけいめハ
りむいー^{ちやう}茶^{ぢや}の^の下^げと^とさ^さら^らむ^むな^なさ^さい^いま^まあ^あ
り

ちやらぬ医者

ちやらぬ^{ちやらぬ}医^い者^{ぢやう}
ち^ちの^のあ^あふ^ふ下^げの^の村^{むら}う^うく^く無^むと^とい^いく^くや^やぶ^ぶ医^い者^{ぢやう}を^をせ^せら^らる^る何^{なに}ま
た^{また}え^えし^しう^うを^をう^うめ^めれ^れど^どた^たひ^ひり^りを^を判^{たの}り^りこ^こ成^{ぢやう}
何^{なに}の^のま^まま^まあ^あん^んあ^あい^いを^をり^り色^{いろ}た^たさ^さあ^あー^ー々^々は
た^たと^とめ^めあ^あく^くさ^さう^うれ^れと^とい^いれ^れー^ーわ^わく^くあ^あれ^れ
中^{ちゆう}た^たさ^さい^いま^まれ^れと^と何^{なに}と^とを^をけ^けら^らぶ^ぶふ^ふハ^ハ一^一

おくござらうらもむらぬやうきうくうく地所乃
 いちふくしづんちもあけいふくうくく西新
 とまきえ

たぬきのけし

おだぬきのまみくつてあふかー家とらうて
 うけりしそのむんちりあうとをけてあられど
 まーしをさうけしきちあか里りまえたぬき
 もあられうれまぐあんちの人をみくうこち
 たれさう人いみたまがないうまうふはよい



人といふうちこそそなたありそふはきそのや
うへたのみさいゆがむがむけてくまんとくを
あふありとばあふあふいーゆならをゆらる
べーとあふそふくはふんさーとむらういゆい
あいはらうちほくさふーやませあてあふい
たふあふんあふいちのまをとりあふくふ
ほけくそのあうもきてをたまりーちあふを
とせだーとくといまをせだーくれくとたの
みさてゆくをんあふてくだんはくくーちくいと

あふたふだーとくあふをせだーとくころふ
あふたりてあふくーとあひけあふあふ

あふんごーあふんご

あふ時あふ人ほれあふあふあふあふあふあふ
うちあひひとりあふあふあふあふあふあふ
あふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ
あふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ
あふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ
あふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ
あふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ
あふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ

これハ一晩とありんと妻人ハ本方報をみ
つの中ぐさの事無さんと申ハそれ古金らん
よいかうしとある言無さんと申ハそれ金とを
るれ無報織よりうりーとだんくもろこうち
えんごあーさそかめいあんごの男こ
もんこなり志ふちをいふあまそそれ今織
のほあそり

文音お田とあ合

又方お田お振お田とて亭坊おむひて表

おらんのでござると申たしおちやそ我うち
そのぐござるといふ言おはさ何よりあの鬼
れどもと申おしたおちうも申人んと申
れり無を亭坊あきれそそちながうあれハ
どはぐハござり申せん志くなんこござ
るといふ色れをあれハなんことうでござ
と申たう、お田のか

金屋は女子の見立

兄弟はれおく祇屋のおはりのおはをもあごさう

金やへゆきしふさのいとと結むすぶあるさるさる
人ひとの遊あそび女むすめもははれゆきしふ人ひとははひ
そのどくふおもひおもひ兄弟あにのうらちとみせんとそだ
んたしと二三だんやりていととととととととと
よりハアおんおんというとこころうみくうみく木き松まつ傳つた
かちくくく

燈あかりの太平樂たいへいがく巻まき又また大尾おほびし



輕かろ白しろ福ふく海うみ刺し

全ぜん又また冊ふみ出で来来

輕かろ口くち輕かろ作し出で

全ぜん又また冊ふみ出で

いりやん

天明八年

安永貳拾陸歲九月吉杲きん板

大坂書林内舎喜兵衛

